

【統計結果の概要】

林業産出額は、戦後の大量伐採に伴う国産材の生産量の減少や、木材価格の低下を主たる要因として長期的に減少してきたが、平成16年以降は4千億円前後で推移し、平成25年以降は増加傾向で推移している。

令和2年は、製材用素材等の生産量が減少したこと等から、前年に比べ142億円減少し、4,831億円（対前年増減率2.9%減少）となった。

図1 林業産出額の推移（全国）

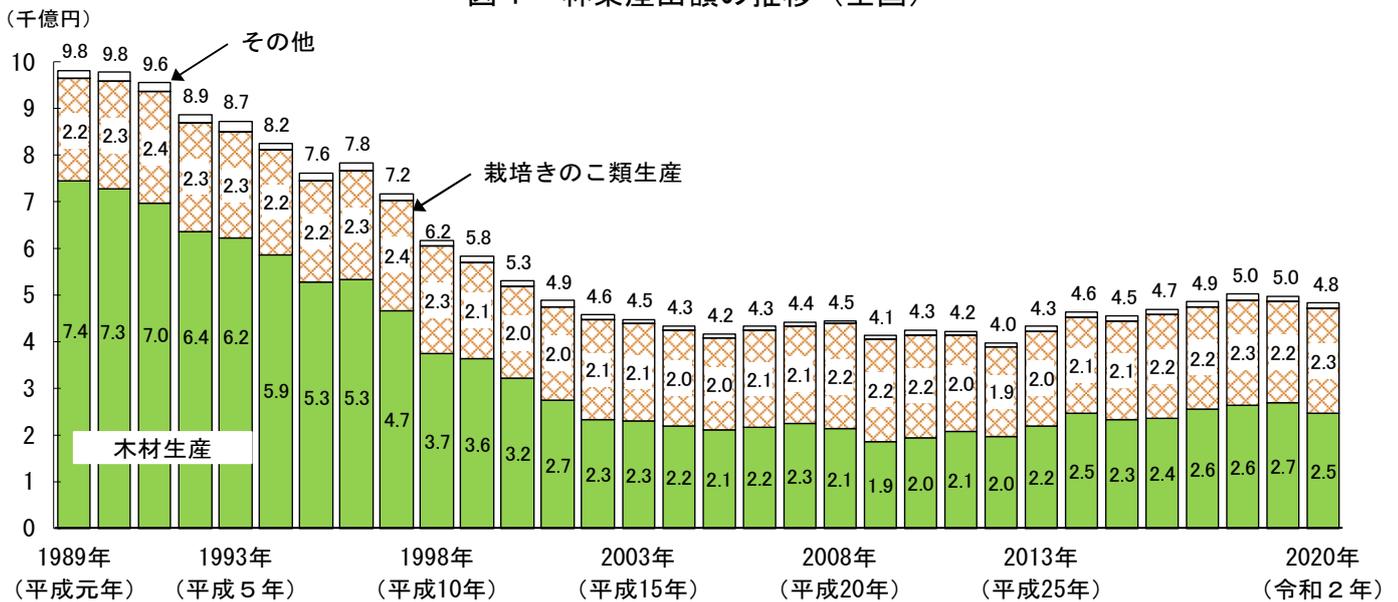
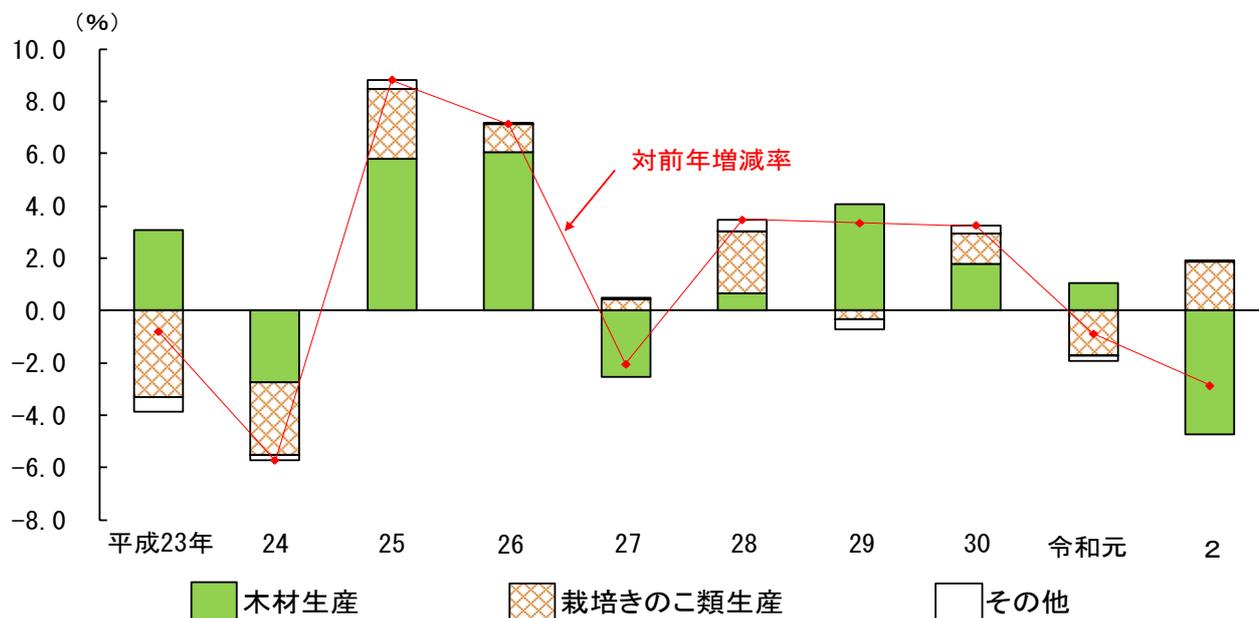


表1 林業産出額（全国）

区 分	令和元年	2		対前年増減率
		実数	構成割合	
	億円	億円	%	%
林 業 産 出 額	4,972.8	4,830.6	100.0	△ 2.9
木 材 生 産	2,700.0	2,464.3	51.0	△ 8.7
栽培きのご類生産	2,166.7	2,259.6	46.8	4.3
薪 炭 生 産	58.1	59.6	1.2	2.6
林野副産物採取	48.0	47.1	1.0	△ 1.9

注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

図2 林業産出額の対前年増減率と部門別寄与度の推移



【関連データ】

主要林産物の輸出額の推移

区分	平成25年	26	27	28	29	30	令和元	2	
								実額	対前年増減率
	億円	%							
農林水産物 計	5,505	6,117	7,451	7,502	8,071	9,068	9,121	9,256 (9,217)	1.5 (1.1)
林産物 計	152	211	263	268	355	376	370	429 (381)	15.9 (2.9)
うち 素材(丸太)	31	69	94	85	137	148	147	163	11.0
製材・加工材	28	34	35	40	57	65	63	70	11.9
合板、単板その他 積層木材	16	20	36	54	68	75	69	62 △	10.4
きのこ類	6	9	8	7	6	6	6	8	41.0

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

注：1 令和2年の定義見直しを受け、品目の内訳は「令和2年農林水産物輸出入概況」の区分とした。そのため、令和2年の農林水産物計及び林産物計の()内の数値は、見直し前の数値である。また、きのこ類の平成25年～令和元年の数値は、財務省「貿易統計」から再集計した数値であり、林産物計には含まれていない。

2 金額は、FOB価格 (Free on board、運賃・保険料を含まない価格) である。

3 対前年増減率は、原数値(千円)で算出した数値である。

【統計結果】

1 木材生産（全国）

木材生産の産出額は、近年、新設住宅着工戸数が堅調に推移してきたことや、中国等への丸太輸出量が増加したこと、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）の導入に伴って、木質バイオマス発電に利用する燃料用チップ素材の利用量が増加したこと等により、増加傾向で推移してきた。

令和2年は、前年に比べ236億円減少し、2,464億円（同8.7%減少）となった。

これは、燃料用チップ素材の利用量及び丸太輸出量は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により新設住宅着工戸数が減少し、製材用素材等の生産量が減少したこと等が影響したものと考えられる。

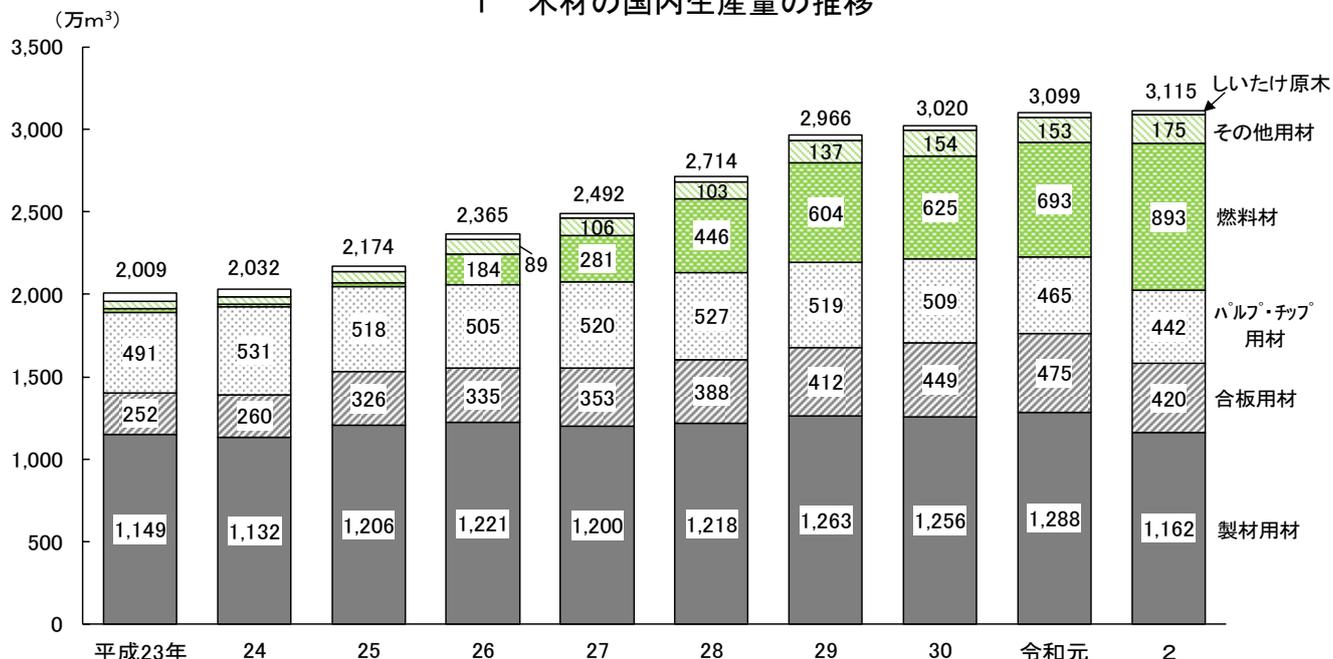
表2 木材生産の産出額の推移（全国）

区 分	平成25年	26	27	28	29	30	令和元	2	
								実数	対前年増減率
木 材 生 産	2,196.8	2,458.6	2,340.8	2,370.0	2,560.9	2,648.3	2,700.0	2,464.3	△ 8.7
製材用素材等	2,143.4	2,354.5	2,182.7	2,150.2	2,250.0	2,289.2	2,304.3	1,953.3	△ 15.2
輸 出 丸 太	29.3	62.5	75.9	67.9	96.4	111.6	109.2	123.9	13.5
燃料用チップ素材	24.0	41.6	82.2	151.9	214.5	247.6	286.6	387.1	35.1

注：製材用素材等の産出額には、パルプ工場に直接入荷されるパルプ用素材の産出額を含む。

【関連データ】

1 木材の国内生産量の推移



資料：林野庁「木材需給表」

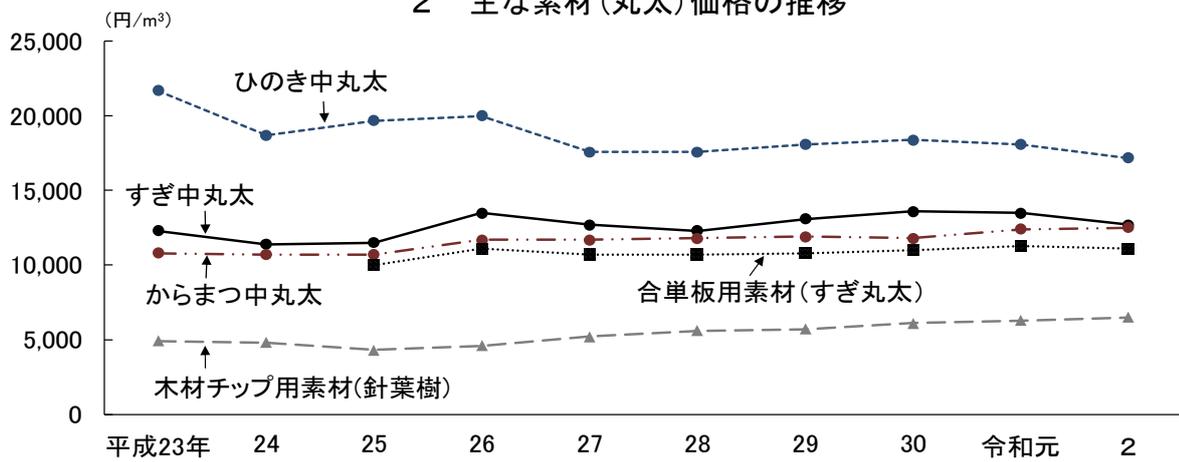
注：1 総需要量のうち国内生産されたものの量である。

2 合板用材は、薄板、単板、ブロックボード、LVL等である。

3 令和2年に、その他用材の加工材、構造用集成材等を製材用材へ、再生木材をパルプ・チップ用材へ計上しており、令和元年結果もこれに合わせて再集計した値である。そのため、令和元年以降のその他用材は、杭丸太、原木輸出等である。

4 燃料材は、平成25年から薪炭材に燃料用チップ等用材を加えた。

2 主な素材(丸太)価格の推移



資料：農林水産省統計部「木材需給報告書」

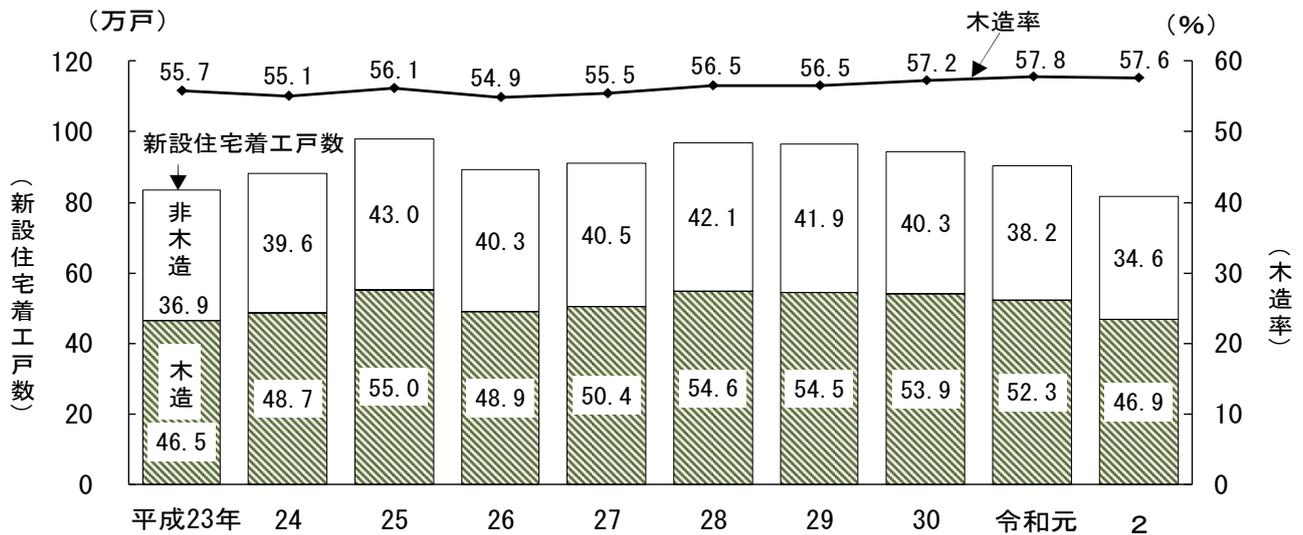
注：1 平成25年、平成30年に調査対象等を見直している。

2 すぎ中丸太は径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m、ひのき中丸太は径14.0～22.0cm、長3.65～

4.0m、からまつ中丸太は径14.0～28.0cm、長3.65～4.0mのものである。

3 合単板用素材は、すぎ丸太（径18.0cm上、合板適材）であり、平成25年から調査を開始した。

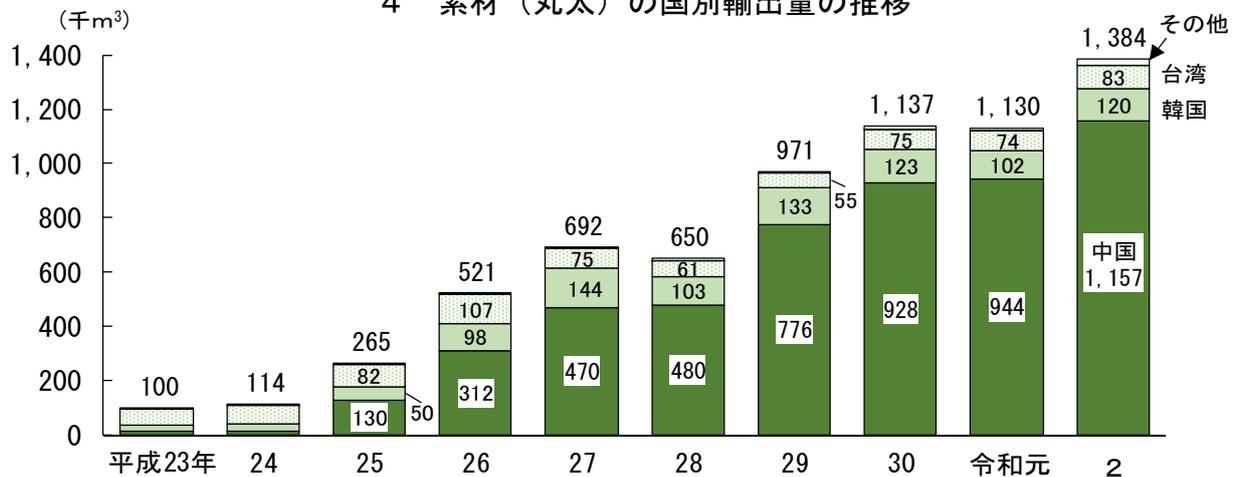
3 新設住宅着工戸数の推移



資料：国土交通省「住宅着工統計」

注：木造率は、原数値（戸）で算出した数値である。

4 素材(丸太)の国別輸出量の推移



資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

2 栽培きのこ類生産（全国）

栽培きのこ類生産の産出額は、近年は消費者の健康志向の高まり等を背景に、ぶなしめじやまいたけ等の需要が高まったことから増加傾向で推移してきた。

令和2年は、前年に比べ93億円増加し、2,260億円（同4.3%増加）となった。

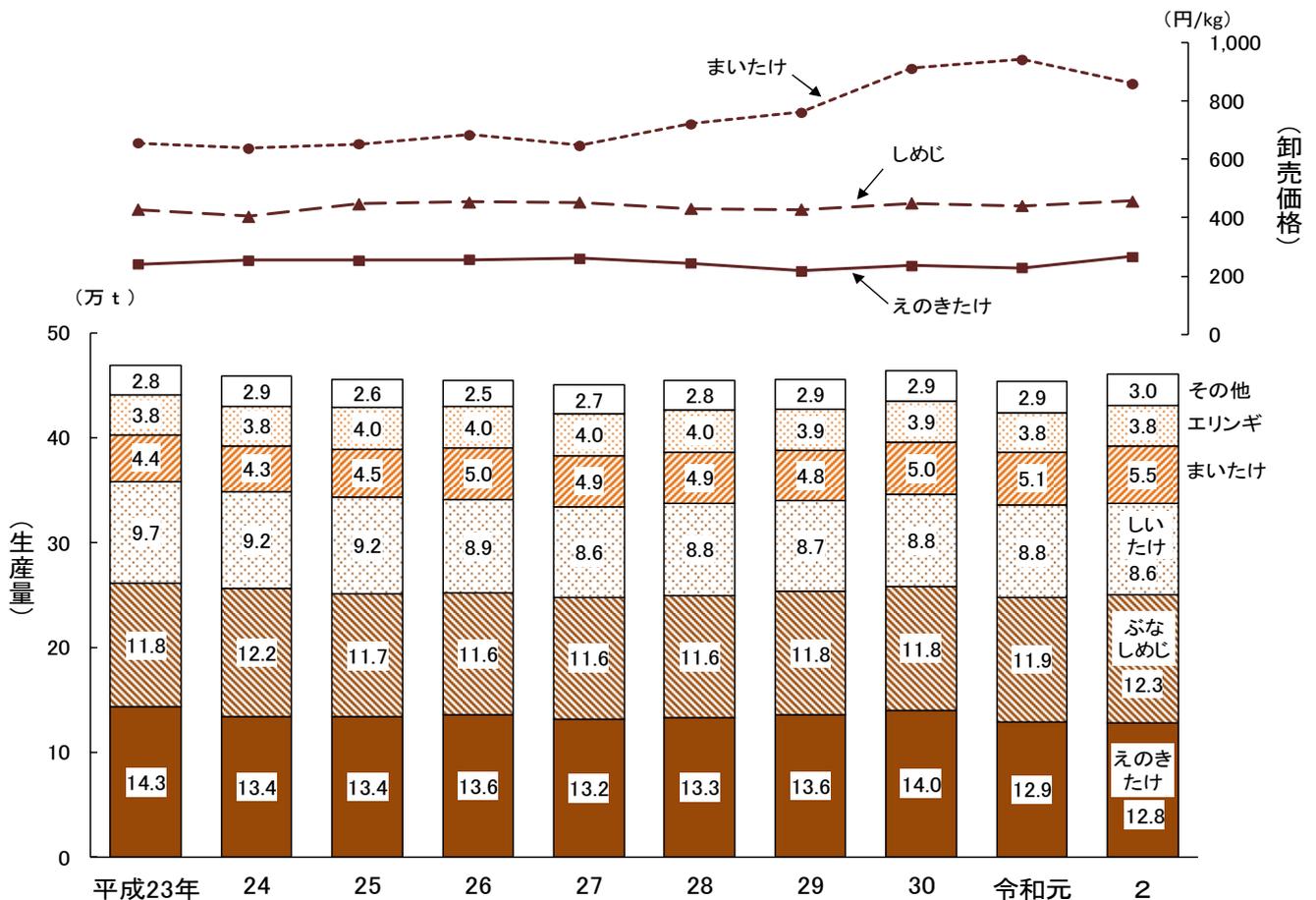
これは、新型コロナウイルス感染症拡大による巣ごもり需要の影響を受け、栽培きのこ類の需要がより高まったこと等が寄与したものと考えられる。

表3 栽培きのこ類生産の産出額の推移（全国）

区分	単位	平成25年	26	27	28	29	30	令和元	2
実 額	億円	2,037.3	2,084.0	2,105.2	2,213.9	2,197.6	2,253.7	2,166.7	2,259.6
対前年増減率	%	5.5	2.3	1.0	5.2	△ 0.7	2.6	△ 3.9	4.3

【関連データ】

きのこ類の生産量及び卸売価格の推移



資料：農林水産省統計部「青果物卸売市場調査」及び「特用林産物生産統計調査」

注：1 えのきたけ及びしめじの卸売価格は、青果物卸売市場調査における主要な青果物卸売市場から推計した全国の平均価格、まいたけの卸売価格は、東京都中央卸売市場年平均価格である。

2 しいたけの生産量は、生しいたけと乾しいたけ（生換算）の合計である。

3 生産量のその他は、なめこ、ひらたけ、まつたけ及びきくらげ類である。

3 都道府県別林業産出額（上位5道県）

令和2年における林業産出額の上位5道県（以下「上位5道県」という。）は、1位が長野県で598億円（対前年増減率5.5%増加）、次いで新潟県が481億円（同2.5%増加）、北海道が388億円（同17.0%減少）、宮崎県が255億円（同11.4%減少）、岩手県が178億円（同7.4%減少）となっている。

表4 上位5道県の林業産出額の推移

都道府県	平成25年	26	27	28	29	30	令和元	2	
								実数	対前年増減率
都道府県計	4,249.1	4,506.2	4,358.7	4,452.1	4,519.4	4,625.6	4,545.7	4,286.4	△ 5.7
うち長野	537.8	552.3	553.8	602.5	590.4	593.5	566.9	598.2	5.5
新潟	416.8	435.3	396.9	411.2	414.3	476.8	469.3	481.0	2.5
北海道	466.4	473.1	462.6	467.4	476.5	468.2	466.9	387.7	△ 17.0
宮崎	209.2	227.2	236.6	263.7	282.4	291.3	287.8	255.0	△ 11.4
岩手	213.7	229.1	231.1	202.9	197.3	196.8	192.5	178.2	△ 7.4

注：1 令和2年林業産出額の上位5道県について表章した。

2 都道府県別産出額には、全国値には含まれる木材生産におけるパルプ工場に直接入荷されるパルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ素材の産出額、薪炭生産におけるまきの産出額、林野副産物採取における木ろう及び生うるしの産出額を含まない。また、全国値には含まない木材生産における県外移出されたしいたけ原木の産出額を含む（以下同じ。）。

図3 木材生産部門の産出額（都道府県別）

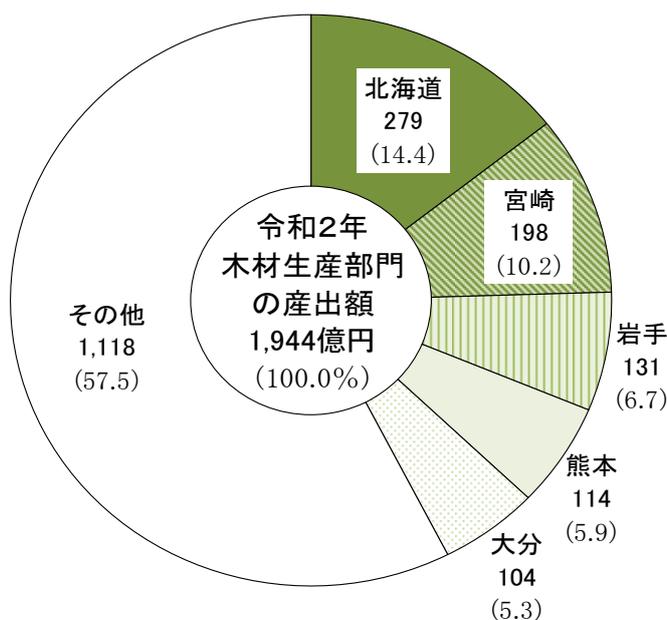


図4 栽培きのこ類生産部門の産出額（都道府県別）

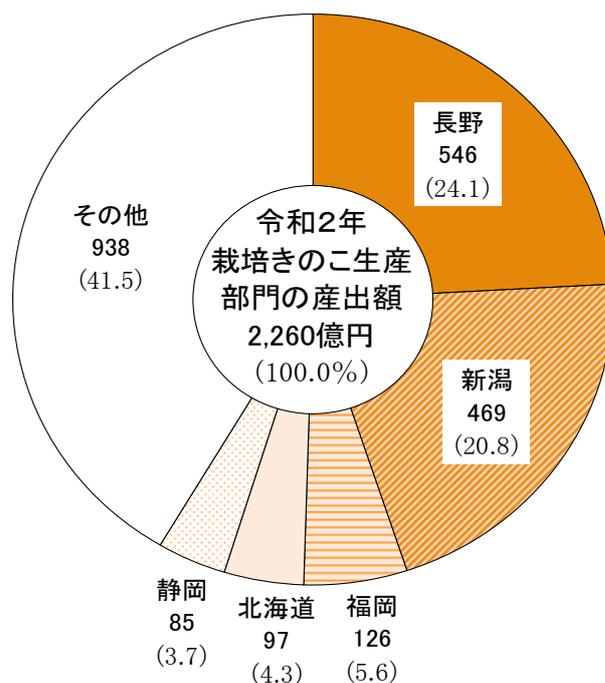


図5 都道府県別林業産出額及び部門別構成割合

